

I 主題名 きまりの大切さ

II 資料名 ハッピーマナー（みんなのどうとく「学研（平成23年度版）」）

III 主題について

- 学級の子どもたちが3年生に進級して2カ月余りが経過した。子どもたちは初めての学級編制で新しい友達とともに生活している。そして、学習や生活のきまりについて、「みんなでよりよい学級にしたい」という願いのもと、自分たちの実態を見つめながら積極的に考えて決め、それをみんなで守ろうとする姿勢が見られる。その姿は特に手洗い・うがいを積極的に行うことや、遊んだ後の長縄やボールの後片付けなどについて声をかけ合いながら進んで行く姿からうかがい知ることができる。

しかし、子どもたちの中には、学校児童会が提案する廊下歩行を守ることにあまり意識せず、「早く遊びたい。」という思いが強く、走って移動してしまう子どもも見られる。また、遊びの中では自分が有利になるようにルールをきめて言い争いになったり仲たがいがいたりしてしまうことも少なからずある。登下校の際には狭い道路を2・3列で話をしながら歩いたり、校外学習の際には、赤信号に変わっても前の人について渡り、自動車の往来を妨げたりする姿も見られる。このことは、「自分さえよければ構わない」「みんなもしているから。」という自己中心的な考えが強いことや、「自分一人ぐらい守らなくてもいつも誰かがしてくれるだろう。」という他人任せの意識があることが要因として考えられる。

そこで、このような子どもたちの価値意識を高め、約束や社会のきまりを守り、公德心をもって気持ちよく生活しようとする心を育てるためには、一般的な約束や社会のきまりについて理解し、それらを守って生活し、みんなで気持ちよく生活していこうとする気持ちを育てることが大切であると考え。公共物や公共機関をはじめ、公共の場所など、みんなで利用するものを大切に扱ったり社会生活を社会のルールとしての公德を大切にしたりして気持ちよく生活しようとする子どもを育てていきたい。

本時では、きまりを守って生活しようとする子どもと、自分の都合のいいようにきまりを解釈して他人に迷惑をかけて行動をしてしまいがちな子どもとの見方、感じ方、考え方の交流を通して、価値意識の変容を見守っていききたい。また、話し合いでは、登場人物の「わたし」の気持ちについて共感的に受け止めさせながら理解させていくことや、一人一人が自分のこれまでの生活経験と重ね合わせながらねらいにかかわる価値について考え、より高い価値へと変容させていききたい。そのために、本研究にかかわり次のような手立てを講じていく。

- ・ 問題の分析・追求場面では、本時のねらいにかかわって押さえておきたい言葉（キーワード）を大切にし、子どもたちに広げることにより価値の感得・理解に生かしていく。
 - ・ 価値の感得・理解の場面では、主人公の心情について2・3人での話し合いを行う。その際自分の考えを明らかにしながら話し合いを行い意見交流する。その後出された考えをもとに全体で話し合い、ねらいに迫るようにする。
 - ・ 主体化の場面では、本時の話し合いを通して考えたねらいにかかわる価値について、これまでの自分の考えが変化したところや深まったことについて、一人一人が明らかになるようにプリントに記述して表現し、価値意識の深まりを実感させる。
- 第3学年及び第4学年の内容項目4-（1）には「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。」と述べられている。これは低学年の「約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にする。」を受け、高学年の「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。」に発展していく。中学年の段階では、特に自分の行動と他の人の行動を相互に見るようになり、自分の行為の善悪を反省しながら、集団の規則やきまりの大切さを理解し、自分たちできまりを守ろうとすることができるようになることが求められる。

「約束や社会のきまり」とは、互いに他者の幸福を脅かさないようにするために守るべき約束事であり、社会のルールであると捉える。社会のルールは、憲法や法律、条例などのいわゆる「法」と法律にはないが習慣として守られている「マナー・きまり」の二つに分類できる。ルールはそのルールが適用される構成員の多数の意志によって作られ、改善されていくものである。また、「公德心」とは、社会の一員として守るべき道徳であり、その正しい生き方を自ら行おうとする精神であると捉える。中学年の子どもは、低学年での他律的、感性的、自己中心的な段階から、自立的、知的で仲間意識を大事にする段階に成長してくる。低学年の学校、家庭、近隣社会の意識から、自分たちの郷土や県全体、国家へと意識がひろがり、行動の範囲の広がりも見られるようになる。また、友人関係においては、4～5人の小グループによる集団行動を好み始め、仲間意識の発達は集団の結束力を強めるが他の集団への排他的な面や独立性が芽生えてくる。自ら納得する理由を追究すること、自分の仲間にとってどんな意味をもっているかを考えることができ、正義感、誠実性、責任感などについて具体的に考えることができるようになってくる段階と言える。「公德心」を守ることは、仲間同士が仲よく、充実した生活を送る上で大切で必要なことであると捉えさせたいし、集団と集団との人間関係をよくするために、一定の約束とその遵守が大いに役立つことにも気付かせる必要がある。きまりの大切さを理解し、それを作り守っていくことは相手も自分も気持ちのよい立場になり、思いやりの心をはぐくむことにもつながると考える。

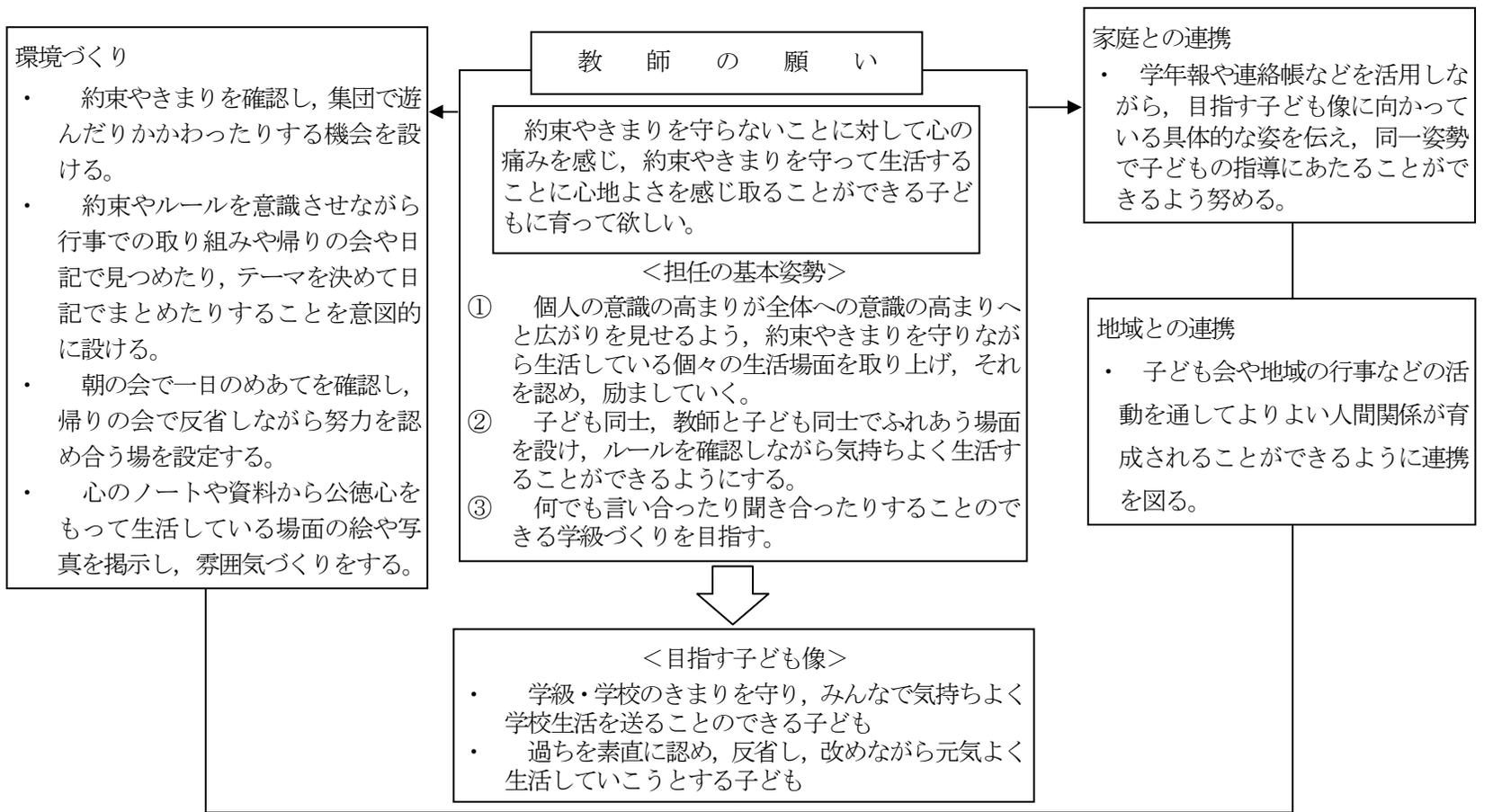
本主題のもとに、身の回りの出来事を通して、約束や社会のきまりの大切さや、進んできまりを守って気持ちよく生活しようとする心の大切さに気付かせていききたいと考える。

- 資料「ハッピーマナー」では、電車で通学する主人公がマナーを守らない大人のために不快な思いをする。主人公は友達と一緒に人のことを考えない相手に腹を立てる。しかし、その友達が、横断歩道の信号が点滅しているのに渡ろうとして一緒に渡ろうとした2年生や自動車を運転している人に迷惑をかけてしまい、主人公はあらためてマナーについて考える。主人公の心情は、電車で飛び乗ってきた大人や、その話に共感しながら交通ルールを守らない友達、安全を確かめながら自動車を運転していった人を見てきまりに対する自分の在り方を考える場面がある。この主人公のきまりに対する気持ちの深まりをしっかりと見つめさせ、主人公の気持ちに共感させることで、ねらいとする価値に迫らせたい。

主人公のきまりを守らない人たちに対する憤りと、安全を確認して何事もなかったかのように走り出す運転手を見てあらためて感じたきまりを守ろうとする心情について十分に理解させながら、ねらいとするきまりを守ることの大切さを感得することのできる適切な資料であると考え。

IV 指導の構想

「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ心」を育てるための学級における指導の構想図



月	学級活動・体験的活動	道徳の時間	各教科の学習	日常指導・その他
	(学) 学級活動 (行) 学校・児童会行事 (体) 体験的な活動	公德心・規則の尊重に関する主題を重点的に行う。	左記の道徳の時間にかかわりのある学習と関連を図る。	子どもの実態に即し、継続的な指導を図る。
四月	(学) ○ 学級活動 「学級目標をきめよう」 自分たちが目指す姿に向けて目標を立て、よりよい学級にしようとする態度を育てる。	◆相手のことを考えた礼儀 「失礼おばさん」 ＜礼儀＞ 礼儀の大切さを知り、お互い気持ちよく生活しようとする心情を養う。	○ 社会科 「学区探検」 学区探検を通して身のまわりの公共施設や公共の場所に気付き、マナーを守って利用することができる。	○ 教室や校舎を大切に扱うことができるように働きかける。 ○ 明るい挨拶や元気な返事ができている子どもについて称揚し、まわりを気持ちよくさせていることに気付かせる。
五月	(体) ○ 体験的な活動 「スポーツテスト」 運動のきまりや器具の使い方を守りながら自分の様々な運動する力を確かめる。	◆きまりの大切さ 「ハッピーマナー」 ＜公德心・規則の尊重＞ 身の回りの出来事を通して、約束や社会のきまりの大切さに気付き、進んできまりを守って気持ちよく生活しようとする心情を育てる。	○ 体育科 「ブラブラくるん（鉄棒）」 鉄棒運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気をつけたりすることができる。	○ 帰りの会で、まわりのことを考えて行動したり努力したりしていた子どもを紹介し、称揚する。
六月	(体) ○ 体験的な活動 「縦割り掃除」 縦割りグループの清掃活動を通して、自分たちで協力して校舎内外をきれいにしようとする態度を養う。	◆みんなのものを大切に 「あめ玉」 ＜公德心、規則の尊重＞ 公共マナーについて考え、みんなで使うものや場所を大切にしようとする心情を育てる。	○ 総合的な学習の時間 「おじいちゃん おばあちゃん こんにちは」 昔の遊びのルールや遊んでいた場所、食文化、生活の知恵などのよさに気付くことができる。	○ 学校生活において、公共物を大切に扱った子どもを紹介し、みんなで認め合えるようにする。
九月				○ 教師が公德心にかかわる行動の姿を示すことで、子どもたちが公德心の大切さに気付く雰囲気をつくる。

V 本時の指導

(1) ねらい

身の回りの出来事を通して、約束や社会のきまりの大切さに気づき、進んできまりを守って気持ちよく生活しようとする心情を育てる。

(2) 展開の大要

	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点 (◇研究の手立て)
問 題 の 把 握	1 きまりを守れなかった経験についてアンケート結果をもとに話し合う。 ○ アンケートを見て、きまりを守れない時の気持ちについてどんなことを感じましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 自分も同じ気持ちになる。 面倒に思う気持ちが多い。 自分勝手にしている気持ちが多い。 きまりを守らなくてよいと思う人が増えると、困る人が多くなりそう。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前にきまりやマナーを守れなかった経験やその時の気持ちについて事前にアンケートを取り、学級の実態を確認しながら価値への導入を図る。
	2 資料を読んで感想を発表し、話合いの方向をつかむ。 ○ 「わたし」のことについて、どんなことを感じましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 電車に乗っている時に押されてかわいそう。 信号が点滅している時に渡らなくてえらい。 横断歩道を渡ろうと走り出したのに立ち止まった「わたし」はどんな気持ちだったのか知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 読んだ後で主人公の「わたし」のしたことについて、感想を聞くことをあらかじめ知らせておく。 主人公が、安全を確かめた後走り出した自動車を見ている場面の気持ちを中心に考えていくことをおさえる。
問 題 の 分 析 ・ 追 求	走り出した自動車を見ている時の「わたし」は、どんな気持ちだったか考えていきましょう。		
	3 電車で飛びとってきた人に対する「わたし」の気持ちについて話し合う。 ○ 「わたし」が手すりに胸をぶつけてもすました顔をしている男の人を見た時、「わたし」はどんな気持ちでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> いたい、ひどいなあ。 あやまって欲しい。 人に迷惑をかけていることに気がつかないのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の乗り物探検の学習を想起させ、混雑している時の様子を捉えさせる。 ◇ 男の人の「すました顔」(キーワード)を押さえ、強く押された後の不快感を共感的に理解させる。
	4 青信号が点滅して渡ろうとしたが立ち止まった時の「わたし」の気持ちについて話し合う。 ○ はっとして立ち止まった時、「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> どうしよう。 あぶない。 車が通れなくなる。 自分のことだけ考えてはだめだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 長い信号で待ちたくない気持ちと、自動車の運転手に迷惑をかける気持ちの葛藤を捉えさせ、立ち止まった心情を考えさせる。

<p>価値の感得・理解</p>	<p>5 走り出した自動車を見ている時の「わたし」の気持ちについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎ 走り出した自動車を見て「わたし」はどんなことを考えたでしょう。</p> </div> <p>6 電車や横断歩道でのできごとについて「わたし」が考えたことについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ 電車や横断歩道での出来事から、「わたし」はどんなことを考えたでしょう。隣の友達と話し合ってみましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あぶなかったなあ。 ・ 自分は渡らなくてよかった。 ・ 運転手さんは優しいなあ。 ・ 交通ルールを守って行動することは大切だ。 ・ これからも迷惑をかけないで行動しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人に迷惑をかけるのはよくない。 ・ みんなできまりを守ればみんなが気持ちよくなれる。 ・ 自分にもきまりを守れなかったことがあったから、これからはみんなのことを考えて行動したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達が無事だったことに安堵しながらも、自分がきまりを破るところだったことを反省する気持ちを考えさせる。 <p>◇ 電車や横断歩道での出来事をもとに、きまりについて主人公が考えたことを2・3人で話し合わせる。考えを交流した後、友達の話を聞いて自分の考えの変化や深まりについて全体の場で確認し、主人公の考えたことをまとめ、本時のねらいに迫りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きまりやマナーについて、みんなで使うものを大切にするという他に、お互いが気持ちよく生活するために協力しなければならないことに気付かせたい。
<p>価値の主体化</p>	<p>7 きまりを守って行動できた時の気持ちについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ 学校や家庭・地域のくらしの中で、今日の主人公のように「はっとした」ことにどのようなことがありますか。 学校や家庭・地域でどんなきまりを守って生活していますか。</p> </div> <p>8 本時学習したことを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ この時間に話し合ったことをもとにして、これまでの自分やこれからの自分について感じたことを話しましょう。</p> </div> <p>9 教師の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廊下を走らないように気をつけている。 ・ 自分から進んで挨拶をしている。 ・ 公園で遊ぶ時に、おやつのごみを捨てないようにしたり、遊具を大切に使うようにしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ きまりやマナーを守って行動できなくなりそうだった経験、逆にきまりやマナーを守って行動することができた経験を数名に語らせることで、他の子どもたちも同様の経験があることに気付かせ、その時の心地よさを全員で共有させたい。 <p>◇ 本時のねらいの価値にかかわって、授業前の自分の考えとみんなで話し合った後の自分の考えについて違いや深まりを話し合いによって明らかにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マナーポスターを掲示しながら、教師が子どもたちの学校生活の中で見きまりやマナーを守って行動していた様子を語ることによって、公德心をもって生活する大切さを実感させたい。